

令和4年度（2022年度）

公益財団法人びわ湖芸術文化財団事業計画

I 事業方針

滋賀県域全体の文化振興施策を総合的に推進する「公益財団法人びわ湖芸術文化財団」の令和4年度は、滋賀県から受託する第4期指定管理の2年目となる。

滋賀県文化振興基本方針（第3次）の基本目標である「文化芸術の力で心豊かな活力ある滋賀を創る」を実現するため、令和3年3月に改訂した財団の「中期経営計画」に基づき、県立文化ホール2館体制のもと、びわ湖ホールを本県の舞台芸術の中心的な施設として、優れた舞台芸術を国内外に発信するとともに、地域に根ざした文化芸術活動を支援する文化産業交流会館と地域創造部が有機的に連携し、市町ホール等と協働しながら、県民の皆様誰もが文化芸術を身近に触れられる多彩な事業を展開する。

一方で、長引く新型コロナウイルス感染症の影響により、劇場は厳しい運営が続いており、アーティストをはじめ文化芸術に携わる者の活動継続も厳しさを増しており、文化芸術が受けた影響は大きい。こうした中、改めて文化芸術の存在意義を再認識し、文化芸術の灯を絶やさず、将来に継承していくため、劇場運営においては、誰もが安心して劇場を訪れていただけるよう、引き続き新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策に万全を期して、運営を行っていく。

1 法人本部

法人本部では、法人全体の総務・経理事務を行うとともに、新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しさを増す財団の経営面での安定化を図るため、滋賀県や大津市とも連携し、びわ湖ホールならびに文化産業交流会館を活用した大規模会議の誘致活動に積極的に参加するなど、収入確保に向けた取組を行う。

また、県内の文化ホール、文化活動者・文化団体、福祉団体、学校、企業や地域等とのネットワークを充実し、協働連携のもと、県民の皆様が身近に文化芸術に触れられる機会を提供する。その中で、県民の皆様の創作活動の発表や鑑賞の場、文化情報の提供等を通じて、誰もが文化芸術に親しめる環境を整備するほか、障がいの有無にかかわらず誰もがともに多彩な文化芸術活動に親しみ、活躍する環境を実現させる取組として、市町の文化ホールと地域、住民がつながるためのモデル事業等を行い、障がい者等の文化芸術活動を支える拠点づくりを進める。

さらに、地域で活動する若手アーティストやコーディネーターの育成・支援事業、滋賀の魅力を発信する事業等を展開し、文化芸術の力で心豊かな活力ある滋賀の実現を目指す。

これらの事業への取組をアピールし、企業、団体や個人から財団運営に対する支援にも結びつけていく。

2 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

開館 25 年目を迎えるびわ湖ホールは、沼尻竜典芸術監督の任期最終年度となる。これまでの実績を踏まえ、我が国の舞台芸術の水準の向上に貢献し「トップレベルの劇場を目指す」という視点と、誰もが気軽に訪れることができる「親しみやすい劇場を目指す」という双方の視点に立ち、バランス良く自主事業を展開する。

県民の皆様が、滋賀県にびわ湖ホールがあることを「誇り」に感じていただけるよう、また、国際的水準の舞台芸術を最高の鑑賞条件で提供することで、県外からも多くの方にお越しいただけるよう、そして、誰もが舞台芸術の楽しみを味わい、繰り返し来場いただけることを目指す。

令和 4 年度は、舞台音響・照明設備等の改修を行うことから、長期（大ホール：7 月 1 9 日～1 1 月 8 日、中ホール：7 月 1 9 日～1 1 月 9 日、小ホール：8 月 1 日～8 月 3 1 日）にわたり、ホールが使えない時期があるが、自主事業は時期を工夫して公演を行うとともに、貸館についても利用調整を行うなど、影響が最小限に止まるよう努めることとしている。

未だ新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中、自主事業の企画運営等、様々に制約を受けることとなるが、より工夫を凝らして事業運営を行うとともに、障がいをお持ちであったり高齢であったりなど、様々な理由でホールまで来られない方々に配慮して、公演の配信やアウトリーチ事業の充実に努める。

また、国内外のホールや関係機関とこれまで以上に連携調整を行い、びわ湖ホールのさらなる発展を目指す。

一方で、コロナ禍において、従前のような入場料収入や利用料収入が見込めない中、びわ湖ホール舞台芸術基金への支援を募るためにも公益財団法人のメリットを最大限 PR することにより、寄付や企業協賛・オフィシャルスポンサー・公演スポンサー・ネーミングライツ等の収入の積極的獲得等に努め、自主財源確保、地域の団体・企業との連携強化を図るとともに、劇場サポーター、びわ湖ホール友の会会員やシアターメイツには、びわ湖ホールをより身近に感じてもらう取組を進めるなど、県民の皆様の視点に立った広報を行い、継続的な来場を促す。

また、県や関係機関と協働して、次代を担う子どもたちが質の高い舞台芸術を体験する学校鑑賞公演を実施するなど、舞台芸術基金を活用し寄付者の想いを実現するための事業にも取り組む。

これらの諸活動を通じ、事業を戦略的・計画的に展開し、健全な劇場運営、安全な施設管理に努める。

3 滋賀県立文化産業交流会館

滋賀県北部の芸術文化活動の拠点を担当してきた文化産業交流会館は、令和 4 年度に開館 35 年目を迎える。

当会館は、令和 3 年度、古典芸能の取り組みを始めて 1 0 周年の節目に、総務大臣から地域資源である伝統文化の普及・振興に貢献したとして「地域創造大賞」を受賞、また、関西で唯一、邦楽の専門過程を有する大阪音楽大学と連携・協力協定を締結した。湖北地域の歴史的特性を活かした特設舞台「長栄座」における「夏のフェスティバル」など、さらに、古典芸能事業の内容の充実を一層図り、全国に発信していく。

また、びわ湖ホール声楽アンサンブルが出演するコンサート等を実施し、邦楽・邦舞と洋楽の双方の舞台芸術を年間通じて幅広い世代の方に堪能していただける事業展開を図る。

イベントホール（収容人数約 2,000 人）では、多目的に利用可能な機能を活かし、「長栄座」事業、ベビーカーのままでも入場できる「0歳児からのコンサート」、マーチングバンドの祭典「フィールドアート」など、独自性を発揮できる公演を行うとともに、次代を担う子どもたちの創造力を育むミュージカルを制作上演する。

小劇場（収容約 200 人）では、滋賀ゆかりの新進アーティストなどの支援を目的としたコンサートをシリーズ企画として実施する。また、人材育成のための邦楽実演家の養成事業や次世代を対象とした箏曲・日本舞踊のワークショップ参加者等による成果発表会を行う。

さらに、関係機関と連携しながら産業分野をはじめとする多様な人と芸術分野を通じた情報交換会や伝統産業展を実施する。また、公益財団法人平和堂財団から「鳩の音楽会」をはじめとする次世代事業を令和3年度に引き続き受託し制作する。

事業経営においては、国、公益法人、民間等の補助金、協賛金や文化基金の獲得とともに、新幹線米原駅から徒歩7分に立地する利便性の高い多目的施設であることをさらに周知し、自主事業の集客を図るとともに、イベントホールでの産業フェアや展示会等、様々な貸館利用を促進する。併せて、新型コロナウイルス感染症予防対策により安心安全に施設利用できる環境づくりに努め、施設の稼働率と収入の向上を図る。

II 事業計画の概要

1. 法人本部

(1) 自主事業

県内の文化ホールとの文化芸術事業等の情報共有や事業企画等のスキルアップを図り、協働連携しながら、誰もが身近に文化芸術に触れられる機会を提供するとともに、地域で活動するアーティストや地域と文化芸術活動をつなぐ人材を育成・発掘する事業を展開する。

ア. 地域連携

県内の文化ホールをはじめ、文化活動者・文化団体と協働連携し、県域でのネットワークの構築や、文化ホールが地域の文化活動拠点として活性化することを目的に「アートコラボレーション事業」に取り組む。具体的には、市町ホールから事業を募集するほか、滋賀県文化賞（文化奨励賞、次世代文化賞を含む）受賞者によるコンサートや、滋賀をテーマに新作狂言の創作に取り組んで 12 年目を迎える「おうみ狂言図鑑」を市町ホール等との協働により制作・上演する。

さらに、文化・経済フォーラム滋賀と共催で文化芸術の可能性を地域に取り入れるアートプロジェクト「びわ湖・アーティスト・みんぐる」を実施するほか、文化団体等と協働して地域のアート活動を支え、地域の活性化を目指す「アート活動支援事業」を実施する。

イ. 情報提供

季刊誌『湖国と文化』を編集・発行し、本県の歴史、風土、自然、文化芸術など、滋賀の多彩な魅力を県内外に発信する。

(2) 受託事業

ア. 滋賀県芸術文化祭

滋賀県芸術文化祭実行委員会を組織し事務局運営を担い、県民の皆様の文化芸術創作活動における発表の場として、美術、写真、文芸の3つの公募展を開催し、作品を身近に鑑賞できる機会を提供する。

また、多くの県民の皆様に滋賀県芸術文化祭にご参加いただくため、開催記念イベントを実施する。

イ. 県内文化情報提供事業

(ア) 湖国文化情報 『れいかる』 編集・発行

県内各地の文化施設で行われる各種文化活動を紹介する湖国文化情報『れいかる』を編集・発行し、県民の皆様への情報提供を通して、文化活動の一層の活性化を図る。

(イ) 総合文化誌 『湖国と文化』 提供

財団が編集・発行した総合文化誌『湖国と文化』を県内外の図書館や教育機関等へ配本し、湖国の文化の魅力を発信する。

ウ. 障害者の文化芸術活動を支える拠点づくり事業

広域拠点の形成のため「文化芸術による共生社会づくりコーディネーター」を設置して、地域の文化施設や公民館など身近な「場」で障がいのある人とない人が一緒に文化芸術を体験して障がいへの関心を深めるプログラム等を企画・実施することにより、文化芸術と社会包摂に対する理解を進め、誰もが文化芸術活動を楽しみ、支援する人が集える「場」づくりを進める。

(3) 独自事業

ア. 文化・経済フォーラム滋賀

文化団体、芸術家、企業、学術、行政等、多様な分野で活躍する者や団体で組織するフォーラムの事務局運営を担い、各分野を越えた交流や「文化で滋賀を元気に！」する事業を推進し、本県の文化と経済の連携による地域の活性化を目指す。

(4) 広報営業活動

びわ湖ホールや文化産業交流会館と連携を図りながら、各種事業チラシの配布をはじめ、ホームページによる広報やチケット販売等を行う。また、びわ湖ホールの広報ネットワークも活用しながら、新聞社や放送局への効果的なプレスリリースに努める。

「アートコラボレーション事業」等、県内の文化ホールと協働で展開する事業のチケット販売についても当財団ホームページ上のチケット販売システムを活用し、取り扱い、便宜を図る。

また『湖国と文化』を「びわ湖ホール友の会」の会員特典に盛り込むことで、新たな購読者を開拓するなど、びわ湖ホール、文化産業交流会館および地域創造部を一体的にとらえ、それぞれが発行する広報媒体を有効活用し、それぞれの営業機会を相互に利用する効果的な営業活動を行う。

2 びわ湖ホール

(1) 自主事業

ア. 令和4年度自主事業

国際的水準の舞台芸術を最高の鑑賞条件で提供するとともに、誰もが舞台芸術の楽しみを味わい、繰り返し来場いただけることを目指し、びわ湖ホールの「創造活動の核」として設置しているびわ湖ホール声楽アンサンブルを中心とした自主事業の制作をはじめ、歌劇、音楽、演劇、舞踊等の多彩なジャンルにわたって、質が高く特色ある事業を厳選して実施するほか、公演の配信やアウトリーチ等により舞台芸術を広く県民の皆様 に普及する活動に取り組む。

また、十分な感染症対策を講じながら、春や秋の音楽祭など、フェスティバル事業等を開催することで、地域の賑わいの創出および経済の活性化に貢献し、幅広い方々から親しみを持ってもらえる事業を展開する。

(ア) オペラ

日本最高水準の力を結集して上演する「プロデュースオペラ」や、芸術監督 沼尻竜典が優れた作品を厳選して上演する「沼尻竜典オペラセレクション」、青少年や初心者のための入門的役割を果たす「オペラへの招待」で優れた作品を上演する。

- ・プロデュースオペラは、ワーグナー作曲『ニュルンベルクのマイスタージンガー』を最高峰のキャストにより、セミ・ステージ形式で上演する。これによりワーグナーの主要 10 作品すべてが上演できることとなる。
- ・沼尻竜典オペラセレクションは、日生劇場と提携して、ロッシーニ作曲『セビリアの理髪師』（栗國 淳演出）を上演、共催事業として県内高校生向け公演も併せて実施する。
- ・「オペラへの招待」シリーズでは、演出にイタリア・オペラ界で活躍の田口道子を迎え、ヴェルディ作曲『ファルスタッフ』を上演する。また、再演を重ねている林 光作曲『森は生きている』を沼尻竜典が指揮を務め、中ホールで上演する。同シリーズでは、声楽アンサンブル・メンバーが主要なキャストを務め、「オペラをこれから観てみたい」という方に向けた入門編として、1 演目 4 公演を定着させるとともに、さらなる公演回数増の可能性を探る。
- ・令和元年度に 23 公演、平成 21 年より 50 公演近く上演し親しまれてきた松井和彦の『泣いた赤おに』（2021 年度新制作版）の県内公演を実施する。
- ・共催事業として、元祖「三大テノール」の一人、プラシド・ドミンゴと世界的プリマドンナであるアンジェラ・ゲオルギューによるリサイタル、またハンガリー国立歌劇場による『魔笛』を上演する。

(イ) オーケストラ

- ・1 年を締めくくる特別な日を最高の音楽に包まれて過ごすコンサートとして定着している「ジルヴェスター・コンサート 2022」を開催する（2020 年度より昼間開催）。
- ・青少年・初心者向けのコンサートとして定評のある関西フィルハーモニー管弦楽団に

よる「子どものための管弦楽教室」を開催するほか、誰もが知る有名な交響曲や協奏曲をオーケストラの演奏でお楽しみいただく「名曲コンサート」をニコラス・ミルトン指揮、日本センチュリー交響楽団の演奏により開催する。

- ・引き続き、沼尻竜典と京都市交響楽団による、マーラーシリーズをお贈りする。
- ・共催事業として、滋賀県初のプロ・オーケストラの「近江シンフォニエッタ」、日本センチュリー交響楽団のびわ湖定期公演 vol.15 を実施する。

(ウ) 室内楽等のコンサート

- ・上質な音楽を小ホールという親密な空間でお楽しみいただく「びわ湖の午後」シリーズでは、妻屋秀和（バス）、パスカル・ロジェ（ピアノ）によるリサイタルを開催する。
- ・室内楽ファンの裾野を広げる「室内楽への招待」では、個性あふれる2つの海外カルテットを招聘し、レクチャーなどの関連企画を実施するほか、10月には日本の若手実力派カルテットの公演を実施する。また共催事業としてヴィオラ奏者のTAIRIKがプロデュースする「古澤巖の品川カルテット」の公演を実施する。
- ・「気軽にクラシック」は、チケット価格を千円、公演時間も1時間程度と短く設定し、より気軽にお楽しみいただけるシリーズとして、第90回日本音楽コンクール声楽部門で第1位となった声楽アンサンブルソロ登録メンバー、船越亜弥の公演を大ホールで、そのほかにも中ホールで1公演、小ホール3公演程度実施する。
- ・大ホールでは「特別コンサート」として、世界の第一線で活躍するアリス＝紗良・オットー（ピアノ）によるリサイタルを開催するほか、「名曲コンサート」と銘打って、演奏生活60周年を迎える前橋汀子のヴァイオリン・リサイタルを実施する。
- ・多彩なジャンル・楽器の演奏を楽しんでいただく「大人の楽しみ方」や、2台ピアノによる演奏など、幅広いニーズに合わせた多彩な公演を、年間を通して行う。

(エ) 声楽アンサンブル

- ・様々なジャンルの声楽曲に取り組む定期公演では、9月に桂冠指揮者 本山秀毅とともに、イタリア声楽曲に取り組み、同プログラムにて東京公演を行うほか、11月に中ホールにて1公演開催する。
- ・2020年度よりスタートした童謡や唱歌、昭和・平成の名曲をオーケストラと歌で綴る「日本の美しい歌」を引き続き、びわ湖ホール・文化産業交流会館の2会場で実施する。また、依頼を受けて札幌でも公演を行うこととなっている。
- ・故・若杉 弘前芸術監督より寄贈されたピアノ「ピノ」とソロ登録メンバーで様々な声楽曲を紹介する「ピノ」シリーズでは、2021年度に続きピアノ・構成を河原忠之が務め「日本の歌」をお届けする。

(オ) ダンス

- ・山海塾作品の中でも、国内で上演できる有数の規模であるびわ湖ホールで、「かげみ」をリ・クリエーション、また、文化庁ネットワーク助成を受けてKAAT 神奈川芸術劇場制作の「星の王子さま－サン＝テグジュペリからの手紙－」を上演する。

(カ) 演劇・伝統芸能

- ・文化庁ネットワーク助成を受けて、二兎社「歌わせたい男たち」をお贈りする。
- ・伝統芸能では、毎年好評の野村万作・野村萬斎狂言公演、坂東玉三郎のトークと素踊りを実施する。

(キ) フェスティバル等

- ・地元企業や団体と連携し、年間を通じて、地域を巻き込む音楽祭を開催することで、地域の賑わいの創出および経済の活性化に努める。
- ・2018年度に開始した「近江の春 びわ湖クラシック音楽祭」は、沼尻竜典芸術監督のプロデュースとしては最後となるが、4月30日・5月1日（4月29日は前日祭）に開催する。また、全体としては、4・5月を開催期間とし、県内4か所で開催される音楽関連の催しと連携して音楽祭を盛り上げ、地域の活性化にもつなげる。
- ・秋にはびわ湖大津秋の音楽祭運営協議会のメンバーとして、地元の企業や団体と連携・協力しながら、「びわ湖大津 秋の音楽祭」に参画し、さまざまなジャンルの文化芸術やイベントをまちなかで繰り広げる。

(ク) 普及事業

- ・県や教育委員会と連携し、次代を担う青少年が舞台芸術に触れる機会を創出するため、「びわ湖ホール 音楽会へ出かけよう！」（ホールの子事業）を、6日間計12公演開催する。また、県内小中学校へのアウトリーチとして「学校巡回公演」や「ふれあい音楽教室」、オペラ『泣いた赤おに』を実施する。
- ・一般公募により選ばれた出演者によるコンサート「アンサンブルの楽しみ」を継続して開催する。
- ・入場料無料のロビーコンサートは、新型コロナの状況を見て開催の可能性を探る。
- ・オペラ講座、公演に関連したワークショップ、セミナーなどを開催し、舞台芸術の普及・振興に努める。
- ・劇場を訪れにくい人にも舞台芸術に触れられる機会を提供するため、公演の配信に取り組みとともに、医療・福祉施設における「ホスピタルコンサート」などを実施する。
- ・地域の劇場、教育委員会と連携して県内ホールを会場として、オペラ『泣いた赤おに』を上演する。また、文化庁の委託を受けて、びわ湖ホール声楽アンサンブルが実演団体として、全国の小学校・中学校等において行う巡回公演は、令和4年度は北陸地方を中心に巡回する。
- ・公益財団法人への移行を機に、2011年度に設けた「びわ湖ホール舞台芸術基金」について、優遇税制が受けられる寄付として積極的に周知を行い、びわ湖ホール声楽アンサンブル定期公演やオペラ公演などに基金の一部を活用している。今後もお寄付をいただいた皆様のお志を生かした事業を展開する。
- ・初代芸術監督である故若杉 弘氏の夫人の故長野羊奈子氏から2015年度に遺贈を受けて設けた「若杉・長野音楽基金」について、「次世代の音楽家を育成して欲しい」というお二人の思いを形にするため、「沼尻竜典オペラ指揮者セミナー」や「声楽曲研修」に同基金を充てて実施する。

- ・日頃からピアノ演奏に励む滋賀県在住、在学の児童生徒から一般（30歳未満）まで部門別に「滋賀県ピアノコンクール」を実施する。
- ・滋賀県在住、在学、在勤または出身の新進演奏家を対象にオーディションを実施。優れた演奏家の今後の活躍を願って「ザ・ファーストリサイタル」を開催することで、本県の素晴らしい演奏家を広く県内外に紹介し、今後演奏家として活動できるよう支援を行う。

イ. 次年度以降自主事業準備

令和5年度に開催する自主事業公演の事前準備を実施するとともに、令和5年度以降の自主事業実施に向けて、公演調査や事前交渉を行う。

ウ. 専属声楽アンサンブル運営

びわ湖ホールの創造活動の核として設置している「びわ湖ホール声楽アンサンブル」については、定期公演をはじめ、「オペラへの招待」などの自主制作オペラ公演、「美しい日本の歌」公演などの自主公演に出演する。

また、小学校へ出向いての「学校巡回公演」や「ふれあい音楽教室」、県内各地域の文化ホールや教育機関と連携して実施する「子ども向けオペラ」、県内の小学校の児童を対象にしたオーケストラ公演「びわ湖ホール 音楽会へ出かけよう！」などの普及事業にも、その中心となって活動を展開し、子どもたちをはじめ、県民の皆様が舞台芸術に触れる機会を創出する。

さらに、依頼公演についても積極的に取り組み、県内外で幅広い活動を展開する。

エ. ネットワークの形成

県の公立文化施設協議会の会長館として、県内公立文化施設のネットワーク形成と職員の能力向上のため、引き続き館長会議やびわ湖舞台芸術スタッフセミナーとしてアートマネジメント研修等を実施する。

(2) 広報マーケティング活動等

情報発信とチケットの販売促進を図るため、Webサイト・SNS・メールマガジン等インターネットを使用した幅広いPR活動のほか、多様なパブリシティ活動、情報誌の発行、新聞・雑誌・電波・交通等による広告を行う。また、びわ湖ホール友の会の入会促進や舞台芸術基金の周知に努め、幅広く寄付を呼びかけるとともに、併せて文化産業交流会館や地域創造部の事業に対しても公演スポンサーを募るなど、協賛支援の確保や貸館利用についての営業活動を展開する。劇場サポーター、シアターメイツをはじめ、地域のつながりや地元企業の協力を得て、チラシや情報誌の配架に努めるなど、人と人とのネットワークづくりを生かした広報活動を行う。

ア. 広報営業活動

びわ湖ホール声楽アンサンブルの活動、自主事業、普及事業等に関する情報が記事やニュースで取り上げられるようマスコミ等へ効果的な情報提供を行うとともに、リレー

ションを構築する。

ホームページの充実を図り、メールマガジン、SNS等による公演情報の発信、舞台芸術情報誌「湖響」(年4回)、公演チケット情報誌「Stage」(毎月)を発行する。また、想定される購買層やチケットの販売状況を勘案し、顧客の動向に即した広告宣伝(新聞・雑誌・ウェブサイト・電波・SNS・交通広告等)を行う。

さらに、オフィシャルスポンサー制度をはじめとする企業団体等の協賛制度の周知・利用を積極的に進め、びわ湖ホールファンを増やし、チケット販売、友の会会員、寄付者等の増加につなげるために、地域の企業、経済団体、関係施設・団体等との交流を深めるとともに、各会員との良好な関係継続に努める。友の会の特別会員・サポート会員については、そのメリットを積極的にPRし、個人・企業を問わず広く加入を勧める。

地域創造部や文化産業交流会館を一体的にとらえ、会員招待対象の公演を幅広く設定するなど、顧客らがメリット感を得やすいよう工夫する。また、広報媒体や営業の機会を相互に有効活用するなど、財団としてのメリットを最大限生かした営業活動を行う。

イ. チケット販売

友の会会員への優先発売や委託販売先ウェブサイトとの連携を行うとともに、組織販売やこれまで蓄積した顧客リスト、アンケート結果の整理・分析を進めることで、チケットの効果的な販売活動につなげ、顧客の拡大に努める。オペラ公演等のネット販売においては、英語によるチケット購入ページを作成し、海外誘客にも取り組む。

さらに、オペラ2公演セット券の販売等企画商品の開発や旅行会社・ホテル等とのタイアップ企画等を通じた販売にも積極的に取り組み、新たな顧客層の開拓に努める。

また、令和5年度にリニューアルするチケットシステムの準備を進める。

ウ. ホームページの運用

令和3年度にリニューアルしたホームページの内容を充実させ、常に最新の情報を提供することにより顧客の利便性やアクセス環境の向上を図る。特に公演ページでは、トピックスや出演者からのコメント、稽古写真やYouTube動画を閲覧できるようにし、飽きさせないページ作りに努める。また、「近江の春 びわ湖クラシック音楽祭」は、特設ウェブサイトを構築し、音楽祭に興味を持ってもらえるよう公演内容を紹介する。また、SNSを積極的に活用し、身近な情報を頻繁に発信することで、ホールの取組に関心が高まるように働きかけ、ウェブサイトへ誘導し、チケットの購買行動に結びつきやすくなる工夫を凝らす。

さらに、ホームページへのアクセス数や動向を分析することにより、広告の打ち方やデザインのあり方を改善し、訪問者数のアップを目指す。

エ. 友の会運営

顧客の拡大・定着、チケット販売等の営業活動の促進、購入データの分析を行い、販売促進に努めるとともに、支援者の拡大の手法(ポイント制等)についての検討を行う。

また、会員特典を詳しく説明することにより、サポート会員、特別会員への加入率を高め、チケット販売促進に結びつける。

さらに、地域創造部や文化産業交流会館を一体的にとらえて会員特典を設定し、友の会会員の満足度や利便性の向上に努める。

オ. 人と人のネットワークづくり

(ア) 劇場サポーター運営

人のネットワークによる観客創造を目的とした「劇場サポーター」制度について、研修や交流会を実施するなど充実した運営を行い、積極的な公演の鑑賞を勧めることで、舞台芸術の普及を図るとともに、サポーターとホールとの関係強化に努める。

(イ) シアターメイツ

青少年の舞台芸術への関心を高め、観客層の裾野を広げるため、引き続き「シアターメイツ」会員を募集し、対象公演のチケットの割引販売、稽古見学会等を実施する。

また、シアターメイツ特別顧問キャラクター「にゃんばら先生」を活用したPR活動を行う。

(ウ) 館内見学ツアー等

びわ湖ホールや舞台芸術への興味、関心を高め観客創造に資するため、好評の「まるとステージツアー」を引き続き実施するほか、舞台芸術に関する雑誌、図書、CD、ビデオ等を備えた舞台芸術情報サロンの運営やホールグッズの販売等を行う。

さらに、自主公演時の託児サービス等を実施するなど、来館者サービスの充実に努める。

カ. びわ湖ホール舞台芸術基金の周知と活用

びわ湖ホール舞台芸術基金の周知に努めるとともに、オンラインによる手軽な寄付システムの運用を通じて寄付拡大に努める。また、寄付を活用した事業展開を図る。

(3) 施設の提供

びわ湖ホール施設の提供にあたっては、利用者（主催者、出演者等）の視点に立って、例えば企業の周年行事にびわ湖ホール声楽アンサンブルの演奏を組み込んだ貸館プランを提案するなど、使いやすく親しめる貸館業務に取り組むとともに、チケットシステムのリニューアルに合わせ、施設予約システムも令和5年度の稼働を目指す。

大中小の各ホールのほか、リハーサル室、練習室、研修室およびホワイエについても活用促進を図るとともに、幅広いジャンルにわたって多くの方々に利用していただき、主催者をはじめ、来場者にも満足していただけるよう万全の対応に努める。

また、自主事業との調整を密にし、効率的な利用受付に努め、貸館可能日の一層の増加を図るとともに、利用者には継続して利用いただけるよう、サービスの向上に努める。

さらに、周辺施設や文化産業交流会館等の関連施設との連携・協力による様々な利用方法を提案し、大規模な貸館案件なども含め、利用者の要望に応じられるよう、利用促進に努める。

なお、令和4年度においては、舞台の音響設備・照明設備等の改修工事により大・中・

小ホールが長期間利用休止となるため、過去施設利用者を含め広く周知し、開館日への利用調整を行うなど影響が最小限となるように努める。

(4) 管理運営

施設の適正な管理を行うことで、日々の安全な運用ができ、長寿命化にも資するよう努めるとともに、びわ湖ホールとしての質の高いサービスの提供を行う。

また、施設が老朽化する中で、利用者ニーズに合わせた効果的な改修ができるように県に要望し、安全・安心な施設管理に努める。

なお、県の長寿命化等推進整備事業として、長期保全計画に基づき改修工事を行う。

ア. ホール管理運営

施設の維持管理を適正に行うとともに、公演開催に伴うチケット販売業務、総合案内業務、舞台技術業務およびレセプション業務等について、びわ湖ホールにふさわしい質の高いサービスを提供する。

災害時の緊急対応について、「滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールおよびびわ湖ホール駐車場災害時の緊急対応要領」をホール職員に徹底、防災訓練を実施し、非常時の対応に備えるとともに、滋賀県の「コロナとのつきあい方滋賀プラン」等に沿って、業種別ガイドラインに基づき、「もしサポ滋賀」の導入および消毒液や非接触体温計の設置をはじめ、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の徹底を引き続き行う。

また、日常の施設・設備管理で危険箇所が発見された場合は、速やかな改修に努める。

イ. 舞台技術運営

(ア) 舞台設備および備品管理運営

舞台設備の日常点検および管理を適正に行うとともに、施設利用者の使いやすい環境を提供する。コロナ禍に新たに整備した撮影カメラを用い「1 カメ Live!」配信事業を開始し、利用者が気軽に配信に取り組める環境を用意している。

(イ) 技術的専門性の向上

びわ湖ホールの機能を十分に活用し、創造性を発揮した舞台技術が発揮できるよう高度な技術力の確保に努める。また、他の劇場との情報交換や調査研究を通して、技術的専門性の向上を目指す。また、今後ニーズの高まりを見せる配信に対して、声楽アンサンブル公演を中心に配信を行うことで、舞台、照明部門はもとより音響映像部門の強化に注力する。

(ウ) 舞台監督、プランナーの活用

自主事業では舞台監督、プランナー、チーフオペレーターなどを職員で担当し、事業費の削減に努める。貸館事業では要望があれば舞台監督、プランナーを担当し、オペレーターの増員はできるだけ職員を配置することで増収に努める。

(エ) 人材育成

「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」の趣旨に沿った取り組みとして、職員の資質の向上を図るために、「舞台技術研修」を実施する。また、他の劇場や近隣の舞台芸術系大学等との連携を図りながら地域の人材育成に努める。

自粛期間中から開始した「舞台用語ハンドブック」（全国公立文化施設協会刊）の用語解説を継続してSNSで発信することで、滋賀県はもとより全国の舞台技術に携わる人をはじめ、学生など、今後舞台人を目指す人への支援を行うこととする。

(オ) 安全管理

「びわ湖ホール劇場技術運営マニュアル」に則り、舞台の安全な管理運営に努める。

(カ) 大規模修繕工事の実施

令和4年7月から11月にかけて、大・中・小ホールの舞台関係の音響設備・照明設備・供用設備などの修繕工事を実施する。

ウ. 駐車場管理運営

駐車場の維持管理を適正に行うとともに、ホール来館者をはじめ多くの方々が利用しやすい運営を行う。24時間入出庫可能をさらにPRして、定期券利用の促進に努める。また、管理業務委託会社と連携し駐車場利用の促進と利用者サービスの向上を目的に最大料金設定を含めて新しいサービスを引き続き、県と連携して検討していく。

3 滋賀県立文化産業交流会館

(1) 自主事業

ア. 令和4年度自主事業

滋賀県文化振興基本方針を具現化するため、以下の7つの目標に向かってびわ湖ホールと連携のもと、2館の役割を明確にしながら各種事業に取り組む。

(ア) 古典芸能を次世代に

令和3年度に10周年を迎えた「長栄座」公演は、引き続き文化庁「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」からの助成金を活用し、舞台芸術アドバイザーの監修および演出家により、質が高く親しみやすい邦楽・邦舞の自主制作公演を行う。また、「長栄座」公演の理解を深めていただくため、映像と解説者によるプレ企画を実施する。

また、令和3年度に引き続き、芝居小屋「長栄座」を「夏のフェスティバル」としてイベントホール内に設営し、幕開けは自主制作公演を2日間、平日には、夏休み企画として子どもを対象とした古典芸能の一日体験教室やその講師による公演や新進の津軽三味線演奏者による演奏会、最終日には、びわ湖ホール声楽アンサンブルによる「美しい日本の歌」公演でフィナーレを締めくくり、和の文化の魅力を県内外に発信する。

(イ) 子ども・青少年の健全な育成のために

子どもたちに古典芸能に興味を持ってもらうための「古典芸能キッズワークショップ（箏・日本舞踊）」を行うとともに、キッズワークショップの箏部門を修了した子どもたちを対象に、演奏技術の向上を図る「箏曲ジュニア・アンサンブル」（令和元年度開設）を継続する。

また、子どもや青少年が、互いを認め合いコミュニケーション能力を身につけながら舞台創作活動に参加する「滋賀県次世代育成ユースシアター事業」を通じて、健全な育成と文化芸術の向上を図る。さらに、邦楽の若手演奏家を小・中学校へ派遣する「和のじかん」を実施し、日本の古典芸能を身近に感じてもらう機会とする。

(ウ) 新進アーティストの飛躍のために

「邦楽専門実演家養成事業」は、今後も「長栄座」事業を支える実演家の養成事業としての機能を継続しながら、より高い水準の邦楽を中心とした演奏団体「(仮称)ぶんさん邦楽アンサンブル」へ飛躍していくために内容の見直しを図る。

「びわ湖ミュージックハーベスト」(受託)、「びわ湖ミュージックフォレスト」、「オーチャードコンサート」の3事業は、世界に向けて挑戦する滋賀ゆかりの新進アーティストの支援のために有機的に関連づけられたクラシック演奏家の育成プログラムとする。「鳩の音楽会」(受託)とともに、公益財団法人平和堂財団および株式会社しがぎん経済文化センターとの協働により内容の充実を図る。

(エ) 文化芸術による共生社会実現のために

滋賀県障害者文化芸術活動推進計画のもと、イベントホールの特徴を活かしながら障がいの有無にかかわらず、誰もが楽しんでいただけるびわ湖ホール声楽アンサンブルとオーケストラによる「0歳児からのコンサート」を制作実施する。

(オ) 2館の統合の優位性を発揮

びわ湖ホール声楽アンサンブルが出演する「近江の春 びわ湖クラシック音楽祭 2022 米原公演」「美しい日本の歌」「オペラ『泣いた赤おに』」「0歳児からのコンサート」などを開催し、湖北地域での顧客創出を図る。

(カ) 施設の特徴を活かした多様な舞台芸術を恒常的に

舞台芸術公演の実施にあたっては、古典芸能、クラシック音楽に加えてポピュラー音楽コンサート等、他の分野も充実させることで多様なニーズに応えられるラインアップとする。

イベントホールでは、可動式椅子の特性と令和3年度末に導入した移動式音響反射板を活かし、客席の半面を舞台のアクティグエリアとして使用するマーチングバンドの祭典「フィールドアート」やバリアフリー型の公演など多彩なジャンルの催物をバランスよく計画し、公演を楽しむヴァリエーションを拡充する。小劇場では、室内楽を中心としたコンサートやパフォーマンス公演を行う。また、文化講座について、令和4年度から財団の直営事業とし、内容の充実と会館事業との連携を図っていく。

(キ) 産業分野との連携

公益財団法人滋賀県産業支援プラザと起業家向けのビジネスセミナーや文化・経済フォーラム滋賀と産業分野をはじめ多様な人と芸術分野を通じた地域振興について考える「ビジネスカフェ in 文化産業交流会館」を開催する。また、芝居小屋「長栄座」夏のフェスティバルに併せて、県モノづくり振興課や近隣観光協会等の協力を得て、「近江のあたらしい伝統産業展」を実施する。

(2) 広報

ア. 広報営業活動

情報誌「湖響」(年4回)への記事掲載や県北部に購読者の多い中日新聞への寄稿(月2回)、ホームページおよびSNSによる情報発信、県北部、福井県、岐阜県エリアを含む新聞・放送局へ資料提供や各社に出向いての事業説明、新聞・雑誌・情報誌や事業協力名義等を得てテレビ・ラジオ等による広報を行う。制作色の濃い事業については、報道関係者を招き会館内で記者会見や記者懇談会を行う。

また、びわ湖ホール友の会会員特典のご招待公演として、当会館公演も組み入れるなど、びわ湖ホール、地域創造部を一体的にとらえ、それぞれの営業機会を相互に利用する効果的な営業活動を行う。

さらに、近隣の商業施設や自治会等に毎月、事業案内を行うとともに、引き続きダ

イレクトメールの送付やメールマガジンを配信する。

イ. チケット販売

インターネットによるチケット販売をはじめ、団体販売やこれまでに蓄積した顧客リスト等を活用しながら、効果的な販売活動を行い、入場料収入の増加や顧客の拡大に努めるとともに、連続公演の割引制度、クレジットカード決済の導入や電子マネーへの対応を検討する。

また、びわ湖ホールチケットセンターでの販売、専用のチラシラックの設置、ダイレクトメールの一括発送、公演時のチラシ挟み込み等を2館で協力しながら、チケットの販売促進に努める。

ウ. アートフレンド（Eメール会員）

インターネットによるチケット販売や公演アンケート等でメールでの情報提供を許可いただいた方へ、定期的にチケット販売や公演についてのトピックスを配信する。

エ. 施設利用促進

イベントホールの移動式音響反射板の設置、新型コロナウイルス感染症予防対策にかかる全館トイレの洋式化、イベントホール、小劇場の配信システムの整備や練習室、会議室等の空気清浄器の設置などのPRを行い、新規顧客の開拓やリピーターの確保等、施設の利用促進を図る。

（3）施設の提供

多様な方々が利用する公共施設としてユニバーサルデザインの視点に立ち、利用者の安全確保を最優先として、人に優しく環境に配慮した効率的な管理運営を行う。また、令和4年度後半に小劇場の照明設備を全面改修するが、施設が老朽化する中、計画的な改修が行われるよう県に引き続き協議していく。

新型コロナウイルス感染症予防対策として、要所に設置したサーモグラフィーカメラや空気清浄機、手指消毒液、飛沫遮断アクリルボード等により、安心安全な施設環境を提供する。

（4）管理運営

効率的な施設運営に努めるとともに、法令に基づいた適正で安全な管理と質の高いサービスの提供を行う。また、利用団体や貸館利用者へのアンケートによる満足度調査、ご意見箱の設置、さらに対話により、利用者の意見・要望を把握し、業務改善に努める。

ア. 会館管理運営

舞台技術、施設管理面で経験豊かな人材を配置し、文化施設としての機能はもとより産業展示等にも対応したフレキシブルな管理と技術提供を行う。利用者には、技術的側面から催事の進行を支援し、専門スタッフが要望に応じた細やかな舞台技術を提供する。

災害発生時または発生の恐れがある場合には、防災体制をとり、関係機関への情報提供と協力依頼を行い、利用者の安全確保に努める。なお、消防訓練は、年2回実施し、消防設備の取り扱いや通報、避難誘導が的確に実施できるよう職員教育を行う。

イ．人材育成

職員の意識改革と資質の向上を図ることを目的に、びわ湖ホールと連携しながら職場研修、自己啓発研修、職場外研修の3つの視点から職員研修を継続的かつ発展的に実施する。さらに舞台技術研修や、公益法人に関する実務研修、会計研修等に参加し、専門的知識の習得に努める。

令和4年（2022年）度自主事業等一覧

（法人本部地域創造部）

（1）自主事業

地域連携

●びわ湖・アーティスト・みんぐる 2022 10月

アートを交流手段として地域でのさまざまな出会いを題材に生まれる作品を楽しむアートプロジェクトを実施します。その過程で地域と芸術をつなぐコーディネーターの育成やアーティスト同士の交流および活動の開拓支援に取り組みます。文化・経済フォーラム滋賀との共催事業。

音楽部門ディレクター：野村 誠(作曲家)

会場：近江鉄道沿線、琵琶湖汽船ほか

●コーディネーター“ぐるぐる”育成講座 8月、9月

「びわ湖・アーティスト・みんぐる 2022」と並行して地域の魅力を掘り下げ、人・出来事・場をつなぐ仕組みを学ぶ講座を実施します。希望者は、「びわ湖アーティストみんぐる 2022」の企画運営に参画していただきます。

●滋賀県アートコラボレーション事業 6月～2023年3月

県内の文化ホール、アートNPO等の文化団体、文化活動者から提案を募集し、採択した事業を、提案者と協働連携し、地域のネットワーク構築と、地域の文化振興を目指して事業を展開します。

①第4回びわ湖音楽祭 in 長浜 6月12日(日)

提案団体：びわ湖音楽祭実行委員会

会場：長浜文化芸術会館

②清塚信也ピアノリサイタル 7月23日(土)

提案団体：甲賀市教育委員会

会場：あいこうか市民ホール

③第12回オーケストラ・ムジカ・チェレステ演奏会 8月21日(日)

提案団体：公益財団法人日野町文化振興事業団

会場：日野町町民会館わたむきホール虹

④STEELPAN ORCHESTRA ぶらす ANISON プラス DANCE らいぶ 9月25日(日)

提案団体：株式会社ケイミックスパブリックビジネス

会場：みずほ文化センター

⑤祭・息づく太鼓 10月16日(日)

提案団体：公益財団法人伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団

会場：伊吹薬草の里文化センター

●滋賀県アートコラボレーション事業

滋賀県文化賞受賞者によるコンサート

未定

コンサートの協働制作事業。市町ホール等の活性化と県内の文化ホールとのネットワーク構築を目的に、滋賀県文化賞（文化奨励賞、次世代文化賞含む）受賞者によるコンサートを開催します。

会場：ガリバーホール

草津市立草津クレアホール

●滋賀県アートコラボレーション事業

おうみ狂言図鑑 2023

2023年1月～3月

狂言の協働制作事業。市町ホール等の活性化と県内の文化ホールとのネットワーク構築を目的に、滋賀を題材にした創作狂言や古典作品を上演します。

出演：茂山千五郎家

会場：1月21日(土) 草津市立草津クレアホール

1月29日(日) 日野町町民会館わたむきホール虹

2月19日(日) 愛荘町立ハーティセンター秦荘

3月26日(日) 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 中ホール

●アート活動支援事業

通年

県内の文化団体等と協働して、地域のアート活動を支え、アートによる地域活性化を目指します。

(支援予定事業)

- ・けいおんストリート Live
- ・ルシオール アート キッズフェスティバル
- ・糸賀一雄記念賞音楽祭
- ・滋賀県次世代文化芸術センターの「連携授業・文化芸術体験プログラム」 ほか

情報提供

●総合文化誌『湖国と文化』の編集・発行

通年

昭和52年(1977年)創刊の滋賀の魅力ある文化を発信する季刊誌で、史跡や人物、自然、伝統行事、文化芸術など多彩な話題を満載しています。県内主要書店を中心に、文化施設や観光施設でも販売しています。

発行日：季刊(7月1日、10月1日、1月1日、4月1日)

発行部数：1回 3,000冊

(2)受託事業

●第52回滋賀県芸術文化祭

未定

県民の皆様の文化芸術活動を広く紹介し、公演および創作発表を奨励するため、滋賀県

芸術文化祭への参加事業を募集します。また、県民の皆様の美術、写真、文芸の各分野の創作活動における発表および鑑賞の場として3つの公募展の開催および第52回滋賀県芸術文化祭の開催記念イベントを実施します。

① 芸術文化祭参加事業

② 芸術文化祭主催事業

- ・ 第61回滋賀県写真展覧会

開催期間：9月13日(火)～19日(月・祝)

会場：滋賀県立美術館

- ・ 第76回滋賀県美術展覧会

開催期間：前期(工芸・書) 12月8日(木)～13日(火)

後期(平面・立体) 12月16日(金)～21日(水)

会場：滋賀県立美術館

- ・ 第72回滋賀県文学祭

開催日：11月23日(水・祝)

会場：滋賀県立男女共同参画センター

③ 第52回滋賀県芸術文化祭開催記念イベント

開催日：8月27日(土)

会場：栗東芸術文化会館さきら

●**県内文化情報提供事業**

通 年

県内各地の文化施設等で行われる各種の文化情報や滋賀の歴史、風土、自然、文化芸術等の特色ある文化情報を発信します。

①湖国文化情報『れいかる』編集・発行

県内で行われる各分野の文化芸術情報を県民の皆様にお届けします。

発行日：年5回発行(6月1日、8月1日、10月1日、12月1日、3月1日)

発行部数：1回 30,000部

②総合文化誌『湖国と文化』提供

季刊誌『湖国と文化』を県内外の図書館や教育機関等に配本し、滋賀の文化の魅力を発信します。

発行日：季刊(7月1日、10月1日、1月1日、4月1日)

配本数：1回 420冊

●**障害者の文化芸術活動を支える拠点づくり事業**

通 年

誰もが文化芸術活動を楽しめる拠点や支援をする人が集える拠点となる「場」を、県内各地域に生み出すことを目的に、文化芸術による共生社会づくりコーディネーターのもと、社会と文化芸術の「つなぎ手」の活動支援と市町の文化施設等におけるプログラムの企画し実施します。

事業：トークカフェ／焚き火ミーティング

アートと社会の相談室
誰もが参加し楽しめる文化芸術プログラムの開催

(3) 独自事業

●文化・経済フォーラム滋賀

通 年

「文化で滋賀を元気に！」を合言葉に文化・経済・学術・行政等の各分野の人たちの交流を目的に発足した「文化・経済フォーラム滋賀」の事務局を担い、文化と様々な分野が連携した創造的な活動が広がるよう各種事業を実施します。

事業：文化で滋賀を元気に！賞
文化ビジネス塾、文化経済サロン
講演会 ほか

令和4年(2022年)度自主事業一覧

(びわ湖ホール)

大ホール

●プロデュースオペラ (2公演) 2023年3月2日(木)・5日(日) ワーグナー作曲『ニュルンベルクのマイスタージンガー』(ドイツ語上演・日本語字幕付)

“創造する劇場”として情報発信を目指すびわ湖ホールは、開館以来、日本最高水準の力を結集し、オペラの自主制作を続けており、その活動は全国的に高く評価されてきました。その中心となるプロデュースオペラでは、ヴェルディ日本初演作品シリーズ、共同制作による大規模かつ独創的なプロダクション、2016年度から4年かけて制作・上演し話題となったワーグナーの大作《ニーベルングの指環》四部作(びわ湖リング)、そして2020年度『ローエングリン』、2021年度『パルジファル』と続き、2022年度はワーグナーの超大作『ニュルンベルクのマイスタージンガー』をお贈りします。国内を代表するキャストを迎え、新型コロナウイルスの影響を最小限におさえるため、セミ・ステージ形式での上演とし、国内外に向けて強く情報を発信します。この上演をもってワーグナーの主要10作品のオペラを全て上演することになります。

指揮：沼尻竜典(びわ湖ホール芸術監督)
演出：栗國 淳
出演：未定
管弦楽：京都市交響楽団

●沼尻竜典オペラセレクション (2公演) 11月26日(土)・27日(日) ロッシェニ作曲『セビリアの理髪師』(イタリア語上演・日本語字幕付)

「沼尻竜典オペラセレクション」は、日生劇場と連携し、ロッシェニの人気作『セビリアの理髪師』(栗國 淳演出)を上演します。前日の25日(金)には、県内の高校生のための公演として無料で開催します。びわ湖ホールのほかには東京、山形、堺で公演が行なわれ、全て沼尻竜典(びわ湖ホール芸術監督)が指揮します。

指揮：沼尻竜典
演出：栗國 淳
出演：中井亮一、小堀勇介、富岡明子、山下裕賀、須藤慎吾、黒田祐貴、黒田 博、久保田真澄ほか
管弦楽：日本センチュリー交響楽団

●マーラー・シリーズ (1公演) 2023年3月19日(日)

シリーズ第3弾は、マーラーにとって人生最も幸福な時期に書かれたにも関わらず、「悲劇的」の副題を持つ、交響曲第6番をお贈りします。

指揮：沼尻竜典
管弦楽：京都市交響楽団
曲目：マーラー作曲 交響曲 第6番 イ短調「悲劇的」

●ジルヴェスター・コンサート 2022 (1公演) 12月31日(土)

1998年の開館以来、年末年始を素敵な音楽で迎えるカウントダウンコンサートとして、一般参加のファンファーレ演奏・合唱団の出演の他、多数の協賛支援をいただいている抽選会など、上質な音楽とエンターテインメント性を併せもったコンサートとして定着してき

ましたが、交通事情の変化や新型コロナの影響を踏まえ昼間の時間帯に開催します（2020年度より昼間開催）。

指揮：沼尻竜典
管弦楽：大阪交響楽団
ソリスト：未定
司会：未定
独唱・合唱：びわ湖ホール声楽アンサンブル
合唱：ジルヴェスター合唱団（一般参加）
ファンファーレ：ジルヴェスター・ファンファーレ隊（一般参加）
構成：中村敬一

●子どものための管弦楽教室（1公演） 2023年3月21日（火・祝）

2008年度より実施してきた好評のシリーズ。子どもたちが楽しみながら学べるだけでなく、大人も一緒にオーケストラについての知識や理解を深められる公演として毎回テーマを設定して実施し、親しまれています。

指揮：藤岡幸夫（関西フィルハーモニー管弦楽団首席指揮者）
管弦楽：関西フィルハーモニー管弦楽団

<特別コンサート>

●アリス＝紗良・オットー ピアノ・リサイタル（1公演） 5月21日（土）

2021年秋にショパンの《24の前奏曲 作品28》に7つの現代作品を織り込んだコンセプト・アルバム『Echoes Of Life エコーズ・オブ・ライフ』を収録・発売したアリス＝紗良・オットー。自身にとって「人生そのものを表わしているように感じられる」という《24の前奏曲》をメインプログラムにコンサートを開催します。（演出照明あり）

曲目：ショパン作曲 「24の前奏曲 作品28」

<名曲コンサート>

何を聴いてよいかわからないクラシック音楽の初心者の方、そしてクラシック・ファンの方まで気軽に、そして満足して聴いていただける選曲、出演者でお届けする大ホールのコンサートシリーズです。1つはオーケストラ公演、1つは器楽公演の年2公演を実施します。

●オーケストラ公演 日本センチュリー交響楽団（1公演） 2023年2月5日（日）

日本センチュリー交響楽団と共同主催で開催するオーケストラ公演。
今回は、ザールラント州立歌劇場の音楽総監督兼首席指揮者を務めたほか、ヨーロッパ各地の歌劇場に、またロンドン・フィル、ベルリン・コンツェルトハウス管、ハンブルク、シュトゥットガルト等の放送響をはじめとするオーケストラにも客演するニコラス・ミルトンが指揮として登場します。

指揮：ニコラス・ミルトン
管弦楽：日本センチュリー交響楽団
曲目：ドヴォルジャーク作曲 ホ短調 作品95 交響曲第9番「新世界より」、ほか

●前橋汀子 ヴァイオリン・リサイタル（1公演） 6月11日（土）

日本を代表する国際的ヴァイオリニストとして、2022年に演奏生活60周年を迎える前橋汀子が登場します。その優雅さと円熟味あふれる演奏で、多くの聴衆を魅了し続けている前橋が、熟達の演奏を聴かせます。

出演：前橋汀子（ヴァイオリン）、ヴァハン・マルディロシアン（ピアノ）

曲目：J.S. バッハ：G線上のアリア

ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ 第9番 イ長調「クロイツェル」 op. 47

サン＝サーンス：序奏とロンド・カプリチオーソ op. 28

サラサーテ：ツイゴイネルワイゼン op. 20、ほか

●びわ湖ホール声楽アンサンブル「美しい日本の歌」（1公演） 12月3日（土）
8月7日（日）文産会館

びわ湖ホール声楽アンサンブルが、唱歌や童謡に加え、昭和や平成に親しまれた名曲をお届けします。

なお、夏には文化産業交流会館の特設舞台「長栄座」で開催するほか、依頼公演として札幌で開催する予定です。

指揮：本山秀毅（びわ湖ホール声楽アンサンブル桂冠指揮者）

編曲：植松さやか

出演：びわ湖ホール声楽アンサンブル

管弦楽：京都フィルハーモニー室内合奏団

曲目：未定

●びわ湖ホール四大テノール&福井敬 コンサート（1公演） 2023年3月12日（日）

びわ湖ホール声楽アンサンブルで出会ったテノール歌手で結成されたびわ湖ホール四大テノールと、日本を代表するテノール歌手、福井敬との共演が再び！ テノールの明るい響きで皆さんを元気にします。

出演：福井敬

びわ湖ホール四大テノール（清水徹太郎、竹内直紀、山本康寛）、植松さやか

<気軽にクラシック>

実力派アーティストの演奏による、公演時間1時間、入場料1,000円のコンサート。クラシック音楽の楽しさを満喫できる、文字どおり気軽に楽しめる公演をお贈ります。好評を得ており、今年は大ホール1公演、中ホール1公演、小ホール3公演、計5公演を実施します。

●気軽にクラシック 33 船越亜弥 今届けたい歌（1公演） 2023年1月22日（日）

2021年度第90回日本音楽コンクールの声楽部門にて第1位優勝の船越亜弥が登場します。豊かな声で歌曲とオペラ・アリアを歌う1時間です。

出演：船越亜弥（ソプラノ）、大久保亮（テノール）、大塚千草（ピアノ）

<伝統芸能>

●坂東玉三郎お話と素踊り（1日2公演） 11月20日（日）

出演：坂東玉三郎 ほか

中ホール

<オペラへの招待>

「オペラをこれから見てみたい」という方には是非お奨めの入門編となるオペラです。びわ湖ホール声楽アンサンブルが「オペラへの扉を開ける」お手伝いをします。なお、2019年度から4日間に公演数を増やして実施しています。

●オペラへの招待 ヴェルディ作曲『ファルスタッフ』（4公演）

7月15日(金)～18日(月・祝)

(イタリア語上演、日本語字幕付)

イタリア・オペラ界で40年にわたって活躍する田口道子を演出に迎え、ヴェルディの最後のオペラ『ファルスタッフ』を中ホールで4日間上演します。イタリア語を駆使した高いアンサンブルを要求される魅力ある作品を通して、声楽アンサンブル・メンバーのスキルを磨きます。指揮はイタリア作品に定評のある園田隆一郎でお贈りします。

指揮：園田隆一郎
演出：田口道子
出演：びわ湖ホール声楽アンサンブル
管弦楽：大阪交響楽団

●オペラへの招待 林光作曲『森は生きている』（4公演）

2023年1月26日(木)～29日(日)

(日本語上演、日本語字幕付)

林光の名作、びわ湖ホールでもおなじみの『森は生きている』を中ホールで4日間上演します。開館当初、青少年オペラ劇場で実施し、唯一そのままの形でレパートリーとして受け継いでいる人気の高い作品です。3月には兵庫県立芸術文化センターでも上演する予定です。

指揮：沼尻竜典
演出：中村敬一
出演：びわ湖ホール声楽アンサンブル
管弦楽：日本センチュリー交響楽団

<室内楽>

●176 アン・セット・シス (1公演)

2023年2月18日(土)

演奏・創作(作編曲)の双方で活動を展開する山中惇史と高橋優介の2人により2019年に結成された新進気鋭のユニットが登場します。2台のピアノ、176鍵盤を縦横無尽に駆使し、ピアノ・デュオの新たな可能性を広げるコンサートです。

※アン・セット・シスとは“176”のフランス語読み、88鍵×2=176から由来します。

出演：山中惇史、高橋優介(ピアノ)
曲目：未定

<気軽にクラシック>

実力派アーティストの演奏による、公演時間1時間、入場料1,000円のコンサート。クラシック音楽の楽しさを満喫できる、文字通り気軽に楽しめる公演をお贈ります。好評を得ており、今年は大ホール1公演、中ホール1公演、小ホール3公演、計5公演を実施します。

●気軽にクラシック 34 京都市交響楽団メンバーによるアンサンブル

京都しんぷおにえった (1公演) 2023年2月11日(土・祝)

京都市交響楽団メンバーにより「音楽を創作し楽しむこと」をモットーに 2009年に結成されたユニットが登場します。オールオリジナルアレンジ作品で9つの楽器が織りなす、華やかなアンサンブルをお贈りします。

出演：京都市交響楽団メンバーによるアンサンブル 京都しんぷおにえった
第1ヴァイオリン 中野志麻 第2ヴァイオリン 片山千津子
ヴィオラ 小田拓也 チェロ 渡邊正和 コントラバス 出原修司
クラリネット 筒井祥夫 ファゴット 中野陽一朗 トランペット ハラルド・ナエス
パーカッション 中山航介

<びわ湖ホール声楽アンサンブル定期公演> (中ホール1公演、小ホール1公演)

びわ湖ホールの創造活動の核として設立されたホール専属の「びわ湖ホール声楽アンサンブル」。定期公演は、オペラアリア、重唱曲、合唱曲、歌曲、宗教曲など、声楽の多様なジャンルでその真価を問うコンサートです。

●第76回定期公演 プッチーニ作曲 歌劇『ジャンニ・スキッキ』 (演奏会形式)

11月19日(土)

(イタリア語上演、日本語字幕付)

イタリアオペラの巨匠・プッチーニを堪能できるプログラム。前半は『ラ・ボエーム』や『蝶々夫人』の抜粋を、後半は『ジャンニ・スキッキ』の全曲を演奏会形式でお楽しみいただきます。

指揮：大川修司 (びわ湖ホール声楽アンサンブル指揮者)

ピアノ：越知晴子

構成：中村敬一

演目：プッチーニ作曲 歌劇『ラ・ボエーム』、『蝶々夫人』より抜粋
歌劇『ジャンニ・スキッキ』 (演奏会形式)

<演劇>

●二兎社「歌わせたい男たち」(1公演)

12月24日(土)

2005年に初演し、2005年第5回朝日舞台芸術賞グランプリ、2006年第13回読売演劇大賞最優秀作品賞、優秀演出家賞を受賞するなど、高い評価を受けた作品を出演者を一新して、再び上演します。

作・演出：永井 愛

出演：未定

<ダンス>

●山海塾「かがみの隠喩の彼方へーかげみ」リ・クリエーション(1公演) 5月22日(日)

主にフランスと日本を拠点とし、その洗練された肉体と造形の美しさで世界40か国以上で活躍する舞踏カンパニー。2000年にパリ市立劇場で初演され絶賛された作品をリ・クリ

エーションして上演します。

出演：未定

●KAAT「星の王子さま」ーサン＝テグジュペリからの手紙ー（2公演）

2023年2月4日（土）・5日（日）

この舞台を子どもたちのためだけでなく、かつては子どもだった大人たちに届けたい。森山開次が「星の王子さま」の世界を多彩なクリエイター、精鋭のダンサーとともに立ち上げる、大型作品。

演出・振付・出演：森山開次 美術：日比野克彦 衣裳：ひびのこづえ

音楽：阿部海太郎

出演：アオイヤマダ、小尻健太、酒井はな、島地保武／坂本美雨 ほか

<伝統芸能>

●野村万作・野村萬斎狂言公演（1日2公演）

12月4日（日）

毎年大好評を博している狂言公演を、引き続きお届けします。

出演：野村万作、野村萬斎 ほか

演目：未定

小ホール

<びわ湖ホール声楽アンサンブル定期公演> (中ホール 1 公演、小ホール 1 公演)

びわ湖ホールの創造活動の核として設立されたホール専属の「びわ湖ホール声楽アンサンブル」。定期公演は、オペラアリア、重唱曲、合唱曲、歌曲、宗教曲など、声楽の多様なジャンルでその真価を問うコンサートです。

●第 75 回定期公演 音楽史の小怪～イタリア古典歌曲から辿る～ 9 月 10 日(土)

びわ湖ホール声楽アンサンブル桂冠指揮者・本山秀毅とともに、イタリア古典歌曲の流れを辿るプログラム。モンテヴェルディからヘンデルのアリアまでの多彩な曲目をお贈りします。同プログラムを 9 月 19 日に東京文化会館でも公演します。

指揮：本山秀毅

チェンバロ：パブロ・エスカンデ

曲目：カッチーニ：麗しのアマリッリ

モンテヴェルディ：私を死なせて

チェステイ：歌劇『黄金のリンゴ』よりプロローグ

スカルラッティ：ガンジスより陽は昇りぬ

ヘンデル：緑の木陰で (ラルゴ) ほか

<びわ湖の午後 61・62>

選りすぐりの演奏家による上質な音楽を、小ホールという親密な空間で聴いていただくというシリーズ・コンセプトで、どなたにも贅沢なひとときをお過ごしいただけるリサイタルを開催します。

●びわ湖の午後 61 妻屋秀和 バス・リサイタル(1 公演) 7 月 23 日(土)

イタリア声楽コンコルソ・ミラノ部門金賞をはじめ多くのコンクールに入賞し、ライプチヒ歌劇場、ワイマール・ドイツ国民劇場のほか、ヨーロッパ各国の歌劇場、そしてびわ湖ホールのオペラにも数多く出演する妻屋秀和のコンサートを開催します。

出演：妻屋秀和(バス)、木下志寿子(ピアノ)

曲目：C.レーヴェ：「魔王」「アルチバルド・ダグラス」ほか

●びわ湖の午後 62 パスカル・ロジェ ピアノ・リサイタル(1 公演) 11 月 23 日(水・祝)

フランス音楽が内包する優雅、繊細、洒脱、色彩、精巧などの表現をユーモアとウィット、エスプリを生かしながら奏でるフランスのピアニスト パスカル・ロジェが登場。フランス作品を中心に贈りいたします。

出演：パスカル・ロジェ(ピアノ)

<室内楽への招待>

室内楽ファンの裾野を広げていくため、2010 年度よりスタートしたシリーズ。多彩な演奏家による室内楽の魅力を紹介しています。6 月には個性あふれる 2 つのカルテットを招聘し、「室内楽」の楽しさを様々な角度からご紹介する講座を開催するほか、10 月には日本の若手実力派カルテットの公演を実施します。

●ダネル弦楽四重奏団(1 公演) 6 月 10 日(金)

結成から 30 年を迎えたベルギーが誇る実力派カルテット「ダネル弦楽四重奏団」を札幌コンサートホール Kitara と提携し、招聘します。ヨーロッパ各国、台北、アメリカ、日本など、世界各地の主要

ホール、様々な音楽祭にも招かれ、2019年からは、ウィグモアホールのレジデンスカルテットを務める彼らによるこだわりのプログラムを演奏予定です。

出演：マルク・ダネル、ジル・ミレ(ヴァイオリン)、ヴラッド・ボグダナス(ヴィオラ)
ヨヴァン・マルコヴィッチ(チェロ)

曲目：ハイドン作曲 弦楽四重奏曲 変ロ長調 第1番「狩」 op. 1-1, Hob. III. 1

ブラームス作曲 弦楽四重奏曲 第1番 ハ短調

チャイコフスキー作曲 弦楽四重奏曲 第1番 ニ長調 op.11

●エペーヌ弦楽四重奏団(1公演)

6月18日(土)

ダイナミックで幅広い音楽性と冒険的で創造的なアプローチで古典派音楽の作品、現代作品そしてジャズにまで取り組む、カリスマの人気を誇る弦楽四重奏団がびわ湖ホールに3度目の登場を果たします。

出演：ピエール・コロンベ、ガブリエル・ル・マガデュール(ヴァイオリン)

マリー・シレム(ヴィオラ)、ラファエル・メルラン(チェロ)

曲目：ハイドン作曲 弦楽四重奏曲 第34番 ニ長調 Op.20-4 Hob.III-34

ヤナーチェク作曲 弦楽四重奏曲 第1番「クロイツェル・ソナタ」

シューマン作曲 弦楽四重奏曲 第2番 ヘ長調 Op.41-2

関連企画

●講座 室内楽の魅力、弦楽四重奏の魅力

5月22日(日)

6月の公演を聴く前に、室内楽の魅力、弦楽四重奏の魅力をわかりやすく解説します。

お話：河井拓

ゲスト：後藤彩子(ヴィオラ奏者)

●カルテット・アマービレ(1公演)

10月29日(土)

2015年桐朋学園大学在籍中のメンバーにより結成、2016年第65回ARDミュンヘン国際音楽コンクール弦楽四重奏部門第3位入賞、あわせて特別賞(コンクール委嘱作品の最優秀解釈賞)を受賞し、19年ヤングコンサートアーティスト国際オーディション(ニューヨーク)で第1位を獲得するなど今後の活躍が期待されている日本のカルテットが登場します。

出演：篠原悠那、北田千尋(ヴァイオリン)、中 恵菜(ヴィオラ)、笹沼 樹(チェロ)

曲目：ハイドン作曲 弦楽四重奏曲 第67番 ニ長調 op.64-5, Hob. III:63 「ひばり」

三善 晃作曲 弦楽四重奏曲 第3番「黒の星座」

ベートーヴェン作曲 弦楽四重奏曲 第9番ハ長調 op.59-3 「ラズモフスキー第3番」

●北村朋幹 ピアノ・リサイタル 20世紀の邦人ピアノ作品(1公演) 10月9日(日)

「卓越した詩的感性、そして哲学的叡智を具えた芸術家」(濱田滋郎)と評価されるように、作品を深く掘り下げ背景に潜む哲学や歴史に肉薄しようとする姿勢が他のピアニストとは一線を画す北村朋幹が、20世紀以降の邦人ピアノ作品を中心にリサイタルを開催します。なお、前日の10月8日(土)には滋賀県立美術館にて、ジョン・ケージの作品も演奏します。

関連企画

●北村朋幹×ジョン・ケージ 10月8日(土) 場所：滋賀県立美術館

ジョン・ケージ「プリペアド・ピアノのためのソナタとインターリュード」を演奏。

滋賀県立美術館と連携して行う公演です。

<スタインウェイ“ピノ”シリーズ>vol.8

びわ湖ホール開館15周年を迎えた2013年に、初代芸術監督(～2006年度)故・若杉弘氏が自宅で愛用していたピアノ(スタインウェイ・ハンブルクモデル1978年製)を寄贈いただきました。本シリーズはそのピアノを活用しお届けするものです。

●日本語とうた(1公演)

2023年1月15日(日)

ピアニストでありプロデューサーとしても活躍する河原忠之とともに「日本の歌」を紹介するシリーズ第2弾。今回は山田耕筰作品、中田喜直作品をお贈りします。

出演：びわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバー
栗原未和（ソプラノ）、益田早織（アルト）、清水徹太郎（テノール）
構成・解説・ピアノ：河原忠之
曲目：山田耕筰作品、中田喜直作品

<大人の楽しみ方>

ファッションやライフスタイルにこだわりを持つ方々に、クラシック音楽のみならず様々なジャンルの音楽をお届けし、多様な芸術文化を楽しんでいただくシリーズです。

●大人の楽しみ方 32 和谷泰扶（ハーモニカ）& 松尾俊介（ギター）（1公演）

10月23日(日)

クロマティックハーモニカの第一人者である和谷が、同じ京都出身のギタリスト松尾とともにハーモニカの豊かな世界をご紹介します。ギターとのアンサンブルも必聴です。

出演：和谷泰扶（ハーモニカ）& 松尾俊介（ギター）
曲目：未定

●大人の楽しみ方 33 カンタオールの世界～フラメンコ音楽とスペイン語歌曲～

(1公演) 2023年2月19日(日)

日本を代表するカンタオール（フラメンコ歌手）石塚隆充本人の弾き語りにより「プーロ（純粋）」で「ホンド（深い）」なカンテ（歌）をお聞きいただくほか、ピアノ、ベース、パーカッションを加えたカルテットでフラメンコ音楽とスペイン語歌曲をたっぷりとお届けします。

出演：石塚隆充（歌、ギター）、石塚まみ（ピアノ）、コモブチキイチロウ（ベース）
大儀見 元（パーカッション）

<気軽にクラシック>

実力派アーティストの演奏による、公演時間1時間、入場料1,000円のコンサート。クラシック音楽の楽しさを満喫できる、文字通り気軽に楽しめる公演をお贈ります。好評を得ており、今年は大ホール1公演、中ホール1公演、小ホール3公演、計5公演を実施します。

●気軽にクラシック 30 中山航介 魅惑の打楽器の世界(1公演)

9月14日(水)

京都市交響楽団首席打楽器奏者中山航介が登場！打楽器の魅力をたっぷりとお届けする楽しい1時間です。

出演：中山航介、中山美輝（打楽器）
曲目：E. サミュ作曲 リベルタンゴ
濱口大弥作曲 MEWOTORRID【めをとでゆお委嘱作品】
A. コッペル作曲 トッカータ（ヴィブラフォンとマリンバのための）ほか

●気軽にクラシック 31 津國直樹 ドイツ歌曲 名曲の愉しみ(1公演) 11月3日(木・祝)

びわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバーの津國直樹が奥深いドイツ・リートの世界へ誘います。

出演：津國直樹（バリトン）、掛川歩美（ピアノ）
曲目：シューマン作曲 「詩人の恋」 ほか

●気軽にクラシック 32 関西弦楽四重奏団 バッハに憧れて（1公演） 12月12日（月）

オーケストラのコンサートマスターや首席奏者、または数々の室内楽コンサートで活躍する第一線のプレイヤー達が弦楽四重奏へのひととき強い情熱と意志を持って2012年に結成した弦楽四重奏団が登場です！

出演：関西弦楽四重奏団
林 七奈、田村安祐美（ヴァイオリン）、小峰航一（ヴィオラ）
上森祥平（チェロ）
曲目：J.S. バッハ作曲 フーガの技法より
フランク作曲 弦楽四重奏曲より
ベートーヴェン：大フーガ ほか

<ミュージック・フォレスト>

文化産業交流会館にて企画・制作するコンサートをびわ湖ホールでも開催します。

●リード希亜奈&久末 航 2台ピアノ（1公演） 11月6日（日）

滋賀県出身の若手ピアニストが織りなす2台ピアノをお楽しみいただきます。

出演：リード希亜奈、久末 航
曲目：未定

米原公演：11月5日（土）

近江の春 びわ湖クラシック音楽祭 2022

沼尻竜典びわ湖ホール芸術監督がプロデュースし、2018年度からスタートした「近江の春 びわ湖クラシック音楽祭」。

今回が沼尻芸術監督最後のプロデュースとなりますが、多くの方々が気軽に芸術文化を楽しめるよう、優れた音楽家の演奏を低料金で提供します。また、県内全域が音楽で盛り上がる期間（4～5月）を設け、県内4地域で音楽関連の催しを開催、地域の活性化にもつなげていきます。

アマチュアの演奏やボランティアの参加等により開催していた無料の公演は、2022年度も見合わせるものとします。

日 程：【前日祭】4月29日（金・祝）

4月30日（土）・5月1日（日）

テーマ：さようなら、故郷の家よ（カタラーニ作曲 歌劇『ワリー』より）

公演数：有料公演 約14公演（大・小ホール）

出 演：沼尻竜典（びわ湖ホール芸術監督）、大阪フィルハーモニー交響楽団、京都市交響楽団（管弦楽）、大植英次、高関健（指揮）、上村文乃（バロックチェロ）、川口成彦（フォルテピアノ）、牛田智大、児玉麻里、小山実稚恵、河原忠之、清水和音、石井美由紀（ピアノ）、戸田弥生（ヴァイオリン）、アレッサンドロ・ベヴェラリ（クラリネット）、砂川涼子、伊藤晴、富平亜希子（ソプラノ）、宮里直樹（テノール）、晴 雅彦（バリトン）、びわ湖ホール声楽アンサンブル

びわ湖大津 秋の音楽祭

13回目となる秋の音楽祭。音楽をはじめ、ダンス、古典芸能など、様々なジャンルのイベントを開催し、芸術を核とした人々のつながりや地域の賑わいを創っていきます。

期間：9月中旬～11月初旬（予定）

普及事業

●びわ湖ホール声楽アンサンブル東京公演 vol.13

9月19日（月・祝）

びわ湖ホール声楽アンサンブルの魅力を全国に向けて発信する東京公演。

第75回定期公演と同プログラムを本山秀毅の指揮により、東京文化会館小ホールで実施します。

指揮：本山秀毅

●舞台芸術研修普及事業

故・若杉弘初代芸術監督から2013年に寄贈されたピアノ（自宅で愛用されていたピアノ [スタインウェイ ハンブルクモデル 1978年製] 愛称“ピノ”）をメインロビーに設置し、「ロビーコンサート」にも活用します。「ロビーコンサート」は、これまで「七夕」や「ハロウィン」、「クリスマス」といった季節にちなんだ無料のコンサートや滋賀県ゆかりの若手演奏家によるロビーコンサート「びわ湖からはばたく」を開催していましたが、実施については、新型コロナウイルスの状況もふまえて検討を行います。

また、声楽アンサンブルによるアウトリーチ活動としての「学校巡回公演」「ふれあい音楽教室」やオペラ『泣いた赤おに』、自主事業に関連したワークショップ、トーク、セミナーを開催するとともに、「オペラ講座」など、舞台芸術の普及のための事業を行います。また、劇場そのものを知ってもらうためのツアー等を企画します。

さらに、地域の大学との実践的な連携も積極的に進めていきます。

主な事業（予定）

1. ロビーコンサート、「びわ湖からはばたく」ロビーコンサート
2. アウトリーチ事業
3. 講座・ワークショップ等
 - ①オペラ、演劇等のワークショップ（随時）
 - ②オペラ講座
 - ③まるっとステージツアー（年2回程度）
4. 大学との連携
 - ①スタッフワーク講座（年4回程度）
 - ②びわ湖ホール舞台技術研修～人材育成講座～

●びわ湖ホール声楽アンサンブル学校巡回公演（5日間10公演）

5月10日(火)・11日(水)・13日(金)・17日(火)・18日(水)

県内の小・中学校を訪問し、学校の体育館をコンサート会場に変えて約1時間の本格的な音楽公演で歌の魅力を体験していただきます。

指揮：本山秀毅、森 香織

●ふれあい音楽教室

実施期間：9月～10月

県内の小・中学校の授業に声楽アンサンブルのメンバー2人とピアニストが参加し、ミニコンサートや歌唱指導を行います。オペラ『泣いた赤おに』実施校については、事前学習として同オペラの紹介も行います。

●県内巡回オペラ『泣いた赤おに』

実施期間：10～11月

浜田廣介の児童文学を原作に、松井和彦が構成・作曲したオペラ『泣いた赤おに』を県内文化施設や学校の体育館で上演します。劇場さながらの本格的な美術、衣裳、照明を用意し、学校にいながら本格的な舞台芸術の魅力を体験していただきます。

指揮：大川修司

演出：中村敬一

出演：びわ湖ホール声楽アンサンブル

会場：守山市民ホール（11月10日）、能登川コミュニティセンター（11月15日）

文化産業交流会館 イベントホール（11月8日予定）

県内小中学校体育館等

●ホスピタルコンサート

病院、福祉施設等を会場に、本県出身の新進演奏家等によるコンサートを開催し、病気療養や高齢など様々な理由で生の音楽に触れる機会の少ない方に心穏やかな時間を過ごしていただく機会を提供します。

協力：一般社団法人滋賀県病院協会、社会福祉法人グロー

出演者：「湖国新進アーティストによる演奏会～ザ・ファーストリサイタル～」出演者等

●文化庁委託 令和4年度 文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

実施期間：10～11月予定

文化庁委託事業として、県外の小中学校にてオペラ『泣いた赤おに』公演を行います。令和4年度は北陸地方を中心に巡回する予定です。

事前に行うワークショップでは「ふれあい音楽教室」と同内容の授業を行い、びわ湖ホールとびわ湖ホール声楽アンサンブルの活動、歌手という職業、オペラ『泣いた赤おに』について紹介します。

指揮：大川修司

演出：中村敬一

出演：びわ湖ホール声楽アンサンブル

会場：各小中学校・特別支援学校体育館

●びわ湖ホール音楽会へ出かけよう！（ホールの子事業）（6日間 12公演）

6月1日(水)・2日(木)・3日(金)・6日(月)・7日(火)・8日(水) 大ホール

県内のすべての子どもが中学3年生までに舞台芸術に触れる機会を創出することを目的に、びわ湖ホール声楽アンサンブルが出演する大規模オーケストラ公演を実施します。共生社会づくりの一環として、特別支援学校、各種学校、適応指導教室の児童・生徒が参加します。（一般には非公開）

指揮：川瀬賢太郎

管弦楽：京都市交響楽団

独唱・合唱：びわ湖ホール声楽アンサンブル

脚本・構成：中村敬一

**●湖国新進アーティストによる演奏会「ザ・ファーストリサイタル 2023」 小ホール
オーディション 10月2日(日)
リサイタル 2023年3月11日(土)**

滋賀県在住、在学、在勤または出身の新進演奏家を対象にオーディションを実施し、優れた演奏家にリサイタルの場を提供します。

部門：器楽（ピアノ、管楽器、弦楽器、打楽器の独奏）、または声楽（独唱）

●アンサンブルの楽しみ ～演奏家のつどい～vol.14 9月24日(土) 小ホール

一般公募により選ばれた出演者たちによるコンサート。音楽愛好家の皆さんの“憧れの場”であるびわ湖ホール小ホールの舞台に立つていただくことに加え、プロのゲストプレイヤーを迎えて演奏と交流の場を提供します。

**●第41回滋賀県ピアノコンクール 予選 12月17日(土)・18日(日) 草津アミカホール
本選 2023年2月19日(日) 大ホール**

日頃からピアノ演奏に励む滋賀県在住、在学の児童生徒から一般（30歳未満）まで部門別にコンクールを実施します。これまでに県内外で活躍するピアニストを多く輩出している伝統のあるコンクールです。

部門：小学校1・2年部門、小学校3・4年部門、小学校5・6年部門、中学校部門、高等学校部門、学生・一般部門（6部門）

●沼尻竜典オペラ指揮者セミナーⅧ～『フィガロの結婚』指揮法～7月1日(金)～3日(日)

若杉・長野音楽基金を活用し、国内外で活躍する沼尻芸術監督が講師を務め、音楽の作

り方やオペラならではの技術等を指導するセミナーを2015年度より実施しており、8回目となります。今回も全国より受講生を募集し、その指導の様子を広く一般に公開し、ともに学ぶ機会を提供します。

講師：沼尻竜典
会場：びわ湖ホール 大ホール
受講者：プロのオペラ指揮者を目指す若手音楽家（5名程度）
管弦楽：大阪交響楽団
会場：大ホール

●イタリア声楽曲研修Ⅲ 7月24日（日）～26日（火）小ホール

若杉・長野音楽基金を活用し、ソプラノ歌手としてイタリアを拠点に活躍する山崎美奈によるびわ湖ホール声楽アンサンブルのための研修を行います。研修内容はイタリアの声楽曲とし、指導の様子を広く一般に公開します。

講師：山崎美奈
ピアノ：關口康祐
受講者：びわ湖ホール声楽アンサンブル

●びわ湖ホール舞台技術研修～人材育成講座～「成果発表シンデレラ（音楽劇）」公演 2023年3月18日（土）中ホール

舞台芸術を担う人材の育成を目的とした研修を開催します。連携協定を締結している2大学の学生が授業の一環として舞台技術や作品創りのノウハウを学び、映像・舞台装置・衣裳・小道具のデザインから製作までを行い、全国から集まった舞台技術者や劇場関係者などとともに1週間の研修を通して舞台を創りあげ、成果発表公演を開催します。

共催事業

●<共催>第2回近江シンフォニエッタ演奏会～解体新書から哲学の道へ～ 5月15日（日）大ホール

滋賀県初のプロ・オーケストラ「近江シンフォニエッタ」の公演を開催します。

指揮：沼尻竜典
ピアノ：リード希亜奈
管弦楽：近江シンフォニエッタ
曲目：チャイコフスキー：ピアノ協奏曲第1番
ドヴォルジャーク：交響曲第9番ホ短調 op. 95「新世界より」 ほか

●<共催>プラシド・ドミンゴ プレミアムコンサート 6月23日（木）大ホール

元祖「3大テノール」の一人プラシド・ドミンゴと、世界的プリマドンナ アンジェラ・ゲオルグユー。オペラ界の2大スターの夢の競演です。

出演：プラシド・ドミンゴ、アンジェラ・ゲオルグユー
指揮：フランチェスコ・イヴァン・チャンパ
管弦楽：大阪交響楽団

●<共催>ハンガリー国立歌劇場来日公演(1公演) 11月13日(日) 大ホール

モーツァルト作曲 歌劇『魔笛』(全2幕) (ドイツ語上演・日本語字幕付)

ハプスブルク帝国の二大王立劇場としてウィーン国立歌劇場と並び称された劇場、伝統と実力のオペラハウス、堂々11回目の来日。びわ湖ホールでは初登場となります。

指揮：ヤーノシュ・コヴァーチュ または バラージュ・コチャール
演出：ミクローシュ・シネタール
出演：未定
管弦楽：ハンガリー国立歌劇場管弦楽団
合唱：ハンガリー国立歌劇場合唱団

●<共催>古澤 巖の品川カルテット(2公演+フリーコンサート) 6月16日(木) 大ホール

カリスマ的なパフォーマンスで聴衆はもとより、演奏家からも絶大な信頼を集める古澤巖が立ち上げた「品川カルテット」。古澤がその才能に惚れ込んだロベルト・ディ・マリーノ作品と弦楽四重奏の名曲を演奏します。客席数は限定300席ほどに設定し、ゆったりと聞けるコンサートを2公演、そしてその前には乳幼児連れの方などを対象としたフリーコンサート(30分間の無料コンサート)を行います。

ヴァイオリン：古澤 巖、福田悠一郎 ヴィオラ：TAIRIK チェロ：高木慶太
曲目：ロベルト・ディ・マリーノ作品、ほか

●<共催>KEIBUN第九 2022 演奏会 12月10日(土) 大ホール

指揮：阪 哲朗
管弦楽：大阪フィルハーモニー交響楽団
合唱：KEIBUN第九合唱団
曲目：ベートーヴェン作曲 交響曲第9番ニ短調 op.125「合唱付き」

●<共催>日本センチュリー交響楽団びわ湖定期 vol.15 12月25日(日) 大ホール

日本センチュリー交響楽団のびわ湖定期15回目はミュージックアドバイザー秋山和慶を指揮に、2021年9月若手ピアニストの登竜門「リーズ国際ピアノコンクール」で第2位、メニューイン賞を受賞した小林海都を迎え、オール・チャイコフスキー・プログラムをお贈りします。

指揮：秋山 和慶
ピアノ：小林海都
曲目：チャイコフスキー：ピアノ協奏曲第1番
チャイコフスキー：交響曲第4番

●<共催>~鳩の音楽会 2022~ 11月13日(日) 中ホール

2021年度平和堂財団芸術奨励賞(音楽部門)の受賞者とこれまでの受賞者による演奏をお届けします。

●<共催>人形劇団京芸「あっちこっちサバンナ」 12月25日(日) 中ホール

12名のキャストでお贈りするファミリー向けの大型人形劇です。

令和4年(2022年)度 びわ湖ホール自主事業カレンダー

※共催予定事業を含む。

	大ホール	中ホール	小ホール
4月			
近江の春 びわ湖クラシック音楽祭 4月30日(土)～5月1日(日)(前日祭:4月29日(金)) ※中ホールでは「オーストリア体感ブース」を開催			
5月	15(日)近江シンフォニエッタ【共催】 21(土)特別コンサート アリス＝紗良・オットー	22(日) 山海塾「かがみの隠喩の彼方へーかげみ」	
6月	1(水)～3(金)、6(月)～8(水)音楽会へ出かけよう！ 11(土)名曲コンサート 前橋汀子ヴァイオリン・リサイタル 16(木)品川カルテット【共催】 23(木)ブラシド・ドミンゴ【共催】		10(金)室内楽への招待 ダネル弦楽四重奏団 18(土)室内楽への招待 エバーヌ弦楽四重奏団
7月	1(金)～3(日)沼尻竜典オペラ指揮者セミナー	15(金)～18(月・祝)オペラへの招待『ファルスタッフ』	
8月	7月19日～11月8日 大ホール改修工事	7月19日～11月9日 中ホール改修工事	23(土)びわ湖の午後61 妻屋秀和 バス・リサイタル 24(日)・25(月)・26(火) 声楽曲研修
			8月1日～8月31日 小ホール改修工事
9月			10(土)声楽アンサンブル第75回定期 14(水)気軽にクラシック30 中山航介 24(土)アンサンブルの楽しみ
10月			9(日) 北村朋幹 20世紀の邦人ピアノ作品 23(日)大人の楽しみ方32 和谷泰扶&松尾俊介 29(土)室内楽への招待 カルテット・アマービレ
11月	13(日)ハンガリー国立歌劇場【共催】 20(日)坂東玉三郎トークと素踊り 25(金)『セビリアの理髪師』(高校生コース)【共催】 26(土)27(日)沼尻竜典オペラセレクション『セビリアの理髪師』	13(日)鳩の音楽会【共催】 19(土)声楽アンサンブル第76回定期	3(木・祝)気軽にクラシック31 津國直樹 6(日)ミュージック・フォレスト リード・希亜奈&久末航 23(水・祝)びわ湖の午後62 バスカル・ロジェ
12月	3(土)びわ湖ホール声楽アンサンブル「美しい日本の歌」 10(土)KEIBUN第九【共催】 25(日)日本センチュリー交響楽団【共催】 31(土)ジルヴェスター・コンサート2022	4(日)野村万作・野村萬斎狂言公演 24(土)二兎社「歌わせたい男たち」 25(日)人形劇団京芸	12(月)気軽にクラシック32 関西弦楽四重奏団
1月	22(日)気軽にクラシック34 船越亜弥	26(木)～29(日)オペラへの招待『森は生きている』	15(日)スタインウェイ・ピノシリーズvol.8
2月	5(日)日本センチュリー交響楽団 19(日)滋賀県ピアノコンクール本選	4(土)5(日) KAAT「星の王子さま」 11(土)気軽にクラシック34 京都しんふおにえった 18(土)アン・セット・シス	19(日)大人の楽しみ方33 カンタオールの世界
3月	2(木)5(日)プロデュースオペラ『ニュルンベルクのマイスター・ジンガー』 12(日)びわ湖ホール四大テノール&福井敬 19(日)マーラー・シリーズ 21(火・祝)子どものための管弦楽教室	18(土) 舞台技術研修	11(土)ザ・ファーストリサイタル2023
その他	5月 学校巡回公演(県内各学校10公演) 9月19日(月・祝)声楽アンサンブル東京公演 10月～11月 県内巡回オペラ『泣いた赤おに』 ロビーコンサート(新型コロナウイルスの状況のみて開催) その他、オペラ講座・古典芸能講座、ふれあい音楽教室、ホスピタルコンサートなど		12月17(土)18(日)滋賀県ピアノコンクール予選

令和4年（2022年）度自主事業一覧

（文化産業交流会館）

イベントホール

●滋賀県次世代創造発信事業 芝居小屋「長栄座」夏のフェスティバル 2022

- ①長栄座伝承会 むすひ ～東西を結び、刻を結び、乾坤を結ぶ～① 7月30日(土)
- ②長栄座伝承会 むすひ ～東西を結び、刻を結び、乾坤を結ぶ～② 7月31日(日)
- ③親子で楽しむ日本の伝統芸能 8月3日(水)
- ④津軽三味線 駒田早代の世界(仮称)「びわ湖ミュージックフォレスト vol.3」 8月5日(金)
- ⑤びわ湖ホール声楽アンサンブル「美しい日本の歌」米原公演 vol.2 8月7日(日)

イベントホール内に特設する芝居小屋「長栄座」において自主制作公演を行います。12年目を迎える本事業は、これまで培ってきたネットワークや制作ノウハウを活かしながら、他の分野とのコラボレーションも行い、全国的にレベルの高い演奏家、舞踊家の出演により、地元の歴史的資源を活用した古典芸能の創作演目を上演します。

また、子ども対象の古典芸能一日体験教室とプロによる古典芸能の披露を組み合わせた公演や新進の津軽三味線演奏者による演奏会を夏休み期間中に実施し、フィナーレはびわ湖ホール声楽アンサンブルによる「美しい日本の歌」公演で締めくくり、和の文化の魅力を県内外に発信します。

●滋賀県次世代育成ユースシアター事業「森は生きている」 12月18日(日) (5月～出演者募集)

県内の子どもや青少年を対象に公募によるミュージカルを上演し、参加者の感性や表現力、コミュニケーション能力を育み、見る人に感動を与えます。なお、令和3年度は新型コロナウイルス感染症対策により稽古や公演に制約を受けたため、改めて開催し内容の充実を図ります。

●フィールドアート 2023 2023年1月28日(土)・29日(日)

イベントホールの特性を活かしたマーチングバンドの祭典。平成19年(2007年)から開催し、これまで県内外の学校吹奏楽部や一般のマーチングバンドなどが参加し、舞台照明で演出されたエンターテインメント性の高い企画として定着してきました。若い世代の達成感あるステージを提供するとともに、ホール活用のPRとしても有益な事業です。

●近江の春 びわ湖クラシック音楽祭 2022 米原公演 4月29日(金・祝)

「近江の春 びわ湖クラシック音楽祭」の米原公演として、イベントホールでびわ湖ホール声楽アンサンブルと女声フォレストによるコラボレーションコンサートを行います。

●びわ湖ホール声楽アンサンブル オペラ「泣いた赤おに」米原公演 11月8日(火)

浜田廣介の児童文学を原作とし、心をふるわすストーリーで子どもたちからも人気の高いオペラです。中村敬一の新演出で大人も子どもも感動する名作を3年ぶりに米原で上演します。

●ぶんさん0歳児からのコンサート vol.2 11月23日(水・祝)

ベビーカーに乗ったまま楽しめる「0歳児からのコンサート」。生まれてすぐに舞台芸術を体感できるとともに、子育て中の保護者にとっては日常のストレス等から解放された時間を過ごすこともできる全世代向けの事業です。びわ湖ホール声楽アンサンブルソロ登録メンバーと大阪交響楽団の特別編成で実施します。

●ポピュラー音楽コンサート 年1公演予定

県内をはじめ広域で来場が見込めるポピュラー音楽コンサートを行い、若年層からシニア層まで幅広く来場してもらえる機会とします。

小劇場

●室内楽シリーズ【びわ湖ミュージックフォレスト】 年9公演

年間を通じ、将来を嘱望されている滋賀県出身のアーティスト等によるコンサートを開催します。若いアーティストの育成・支援とともに、県北部地域の県民の方々を中心にクラシック音楽等のファンを開拓し、リピーターの定着を目指します。

●室内楽公演【オーチャードコンサート】 8月27日(土)・12月23日(金) 年2公演

「びわ湖ミュージックハーベスト」(共催事業)から「びわ湖ミュージックフォレスト」を経て技術を身につけた若いアーティストのさらなる研鑽の場とし、プロのクラシック演奏家として自立できるように企画立案・制作・広報まで総合的な経験を積み、コンサートをプロデュースできるスキルを身につけていただきます。裏方やスタッフの役割を体験することにより、人間的な厚みのあるアーティストとしての成長を促し、さらなる飛躍を期待して実施します。

●ラストラダ カンパニー公演「サーカスの灯」 5月8日(日)2公演

サーカス芸とパントマイムを駆使して様々な表現を追求している、名古屋市を拠点に活躍中の2人組の道化師によるコミカルでシュールなパフォーマンスショーをワークショップとともに行います。和紙のサーカステントの舞台「サーカスの灯」は厚生労働省児童福祉文化財に認定され、アシテジ「国際児童青少年舞台芸術協会」世界大会国内招待作品にも選ばれています。

●長栄座伝承会 むすひ プレ企画特別上映会 7月2日(土)

令和3年度、新シリーズでスタートした「長栄座伝承会むすひ」公演の収録映像を講談師の玉田玉秀斎の解説付きでたどる上映会です。駅名連歌「まいばらはつ」、「響鳴」の初演を見逃した方々に公演の見どころをお伝えし、今年度の公演への橋渡しとなる企画として実施します。

普及事業

【人材育成】

●滋賀県次世代創造発信事業 邦楽専門実演家養成事業 9月～11月(成果発表会11月20日(日))

若手の演奏家を対象に公募し、邦楽(箏・三弦・十七絃)の研鑽機会を提供します。「長栄座」事業をはじめとした出演の機会を得るとともに、事業後は滋賀県邦楽専門集団「しゅはり」へ登録して活動を継続します。また、より高い水準の邦楽演奏団体「(仮称)ぶんさん邦楽アンサンブル」へ飛躍するために県内文化ホール等で演奏会を開催します。

●滋賀県次世代創造発信事業 古典芸能キッズワークショップ 7月～11月(成果発表会11月13日(日))

日本の古典芸能の世界を身近に感じ、その楽しさに触れることのできる子ども向けの箏と日本舞踊のワークショップと成果発表会を行います。

●滋賀県次世代創造発信事業 箏曲ジュニア・アンサンブル 7月～11月(成果発表会11月13日(日))

古典芸能キッズワークショップで特に参加希望の多い箏部門の上級コースとして、体験ワークショップを超えた高度な技術が習得でき、アンサンブル演奏等で日本音楽の魅力を発信できる人材を養成します。

●滋賀県次世代創造発信事業 アートマネジメント人材養成講座 **時期調整中**

地域で舞台芸術を企画制作する人材を養成する講座です。令和4年度も古典芸能に関するテーマで実施する予定です。

【普及啓発】

●滋賀県次世代創造発信事業 「和のじかん」 **10月～2月**

当会館事業に出演する邦楽（箏・三弦・尺八等）の若手演奏家を小・中学校に派遣し体験プログラムを実施し、児童・生徒に古典芸能に興味を持ってもらう機会とします。

●夢キラリ文化基金コンサート **木之本スティックホール 3月12日（日）**

夢キラリ文化基金を活用して古典芸能や邦楽の振興につながる演奏会を企画し、賛同の輪がさらに広がることを期待して実施します。出演は、滋賀県邦楽専門集団「しゅはり」ほかで、現在まで積み上げてきた演奏曲目の再演とポピュラーな曲目を組み合わせたプログラムを予定しています。

●文化講座 **通年**

これまでびわこ文化センターが行ってきた約70の文化講座を令和4年度より当財団が直営で運営し、講座内容の充実と会館事業との連携を図っていきます。

【産業連携】

●ビジネス・カフェ in 文化産業交流会館 **4回程度**

公益財団法人滋賀県産業支援プラザと起業家向けのビジネスセミナーを開講するとともに、文化・経済フォーラム滋賀と協働し、産業分野をはじめ多様な人と芸術文化を通じた地域振興について考えます。

●近江のあたらしい伝統産業展 **7月30日（土）、7月31日（日）**

「長栄座」事業の開催に併せて、県モノづくり振興課や近隣観光協会等の協力を得て、県内の伝統産業、地場産業等の企業・作家による展示販売、また同時に、会館に入居する団体の活動紹介も行います。

【情報提供】

●プレイガイド&アートインフォメーションコーナー **通年**

情報紙、書籍等の閲覧、文化情報の提供、催し物チケットの販売のほか、県民の方々や県内文化ホールからの芸術文化に関する企画、舞台技術等の相談業務を行います。また、公益社団法人びわこビジターズビューローの協力を得て、滋賀の観光情報を提供します。

共催事業

●T.M.R. LIVE REVOLUTION '21 -VOTE- 4月23日(土)・24日(日)

令和3年度から延期された「滋賀ふるさと観光大使」を務める西川貴教(T.M. Revolution)の県内巡回公演の米原公演。キュードー大阪との共催で実施します。

受託事業

●平和堂財団 音楽事業

「次世代を担う心豊かな人づくり」として、長年にわたって注力されている公益財団法人平和堂財団の音楽部門の事業を当財団が受託し、滋賀にゆかりのある若手演奏家の育成プログラムを当会館が制作協力します。

- ・ 芸術奨励賞受賞者による「鳩の音楽会」
11月11日(金) 高槻現代劇場
11月12日(土) ひこね市文化プラザ
11月13日(日) びわ湖ホール
- ・ 音楽部門芸術奨励賞選考会
2023年1月7日(土) びわ湖ホール
- ・ 室内楽公演「びわ湖ミュージックハーベスト」
3月23日(木)～26日(日)
びわ湖ホール小ホールほか
- ・ 芸術奨励賞受賞者によるミニコンサート
時期未定 平和堂店舗等

令和4年度(2022年度)文産会館自主事業カレンダー

	イベントホール	小劇場	ホール外
4月	・23日(土)、24日(日)T.M.R LIVE -VOTE-[共催] ・29日(金・祝)近江の春クラシック音楽祭 びわ湖ホール声楽アンサンブル&女声フォレスト		
5月		・8日(日)ラストラーダ カンパニー 「サーカスの灯」	
6月		・11日(土)びわ湖ミュージックフォレスト①「打楽器」	
7月	・30日(土)長栄座「むすひ」公演① ・伝統産業展 ・31日(日)長栄座「むすひ」公演② ・伝統産業展	・2日(土)長栄座伝承会むすひブレ企画特別上映会 ・18日(月・祝)びわ湖ミュージックフォレスト②「室内楽」	
8月	・3日(水)親子で楽しむ伝統芸能 ・5日(金)びわ湖ミュージックフォレスト③「邦楽」 ・7日(日)びわ湖ホール声楽アンサンブル 美しい日本の歌 米原公演vol.2	・13日(土) びわ湖ミュージックフォレスト④「琵琶」 ・27日(土)オーチャードコンサート①「打楽器」	
9月		・4日(日)びわ湖ミュージックフォレスト⑤「室内楽」 ・19日(月・祝)びわ湖ミュージックフォレスト⑥「室内楽」	
10月		・2日(日)びわ湖ミュージックフォレスト⑦「打楽器」 ・8日(土)びわ湖ミュージックフォレスト⑧「琵琶」	(平和堂財団 音楽事業)
11月	・8日(火)びわ湖ホール声楽アンサンブル オペラ「泣いた赤おに」米原公演 ・23日(水・祝)ぶんさん0歳児からのコンサート	・5日(土)びわ湖ミュージックフォレスト⑨「室内楽」 ・13日(日)古典芸能キッズワークショップ & 箏曲ジュニア・アンサンブル成果演奏会 ・20日(日)「邦楽専門実演家養成事業」演奏会	和のじかん ・鳩の音楽会 11日(金) 高槻現代劇場 12日(土) ひこね市文化プラザ 13日(日) びわ湖ホール
12月	・18日(日)ユースシアター事業 ミュージカル「森は生きている」	・23日(金)オーチャードコンサート②「室内楽」	学校訪問
2023年1月	・28日(土)、29日(日)フィールドアート2023		・音楽部門奨励賞選考会 7日(土)びわ湖ホール
2月			
3月			・12日(日)夢キラリ文化基金コンサート 木之本ステイクホール ・びわ湖ミュージックハーベスト[共催] 23日(木)～26日(日) びわ湖ホール

(開催月日未定)

イベントホール ・ポピュラー音楽コンサート 1公演予定

その他 ・アートマネジメント人材養成講座(会議室)

・ビジネスカフェ 4回程度(会議室等)[共催]

・平和堂財団芸術奨励賞受賞者によるミニコンサート[共催]

(通年)

・文化講座

・プレイガイド&アートインフォメーションコーナー